

自 己 評 価 表

グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)
<p>○学校生活を通じて、職業人としての倫理観や豊かな人間性を養い、地域社会から信頼される人材を育成します。</p> <p>○学習活動に主体的・協働的に取り組み、将来にわたり地域で活躍できる資質と能力を育成します。</p> <p>○高度な会計知識や情報活用能力を備え、地域に貢献できる人材の育成を目指します。</p> <p>○特別活動や部活動を通じて、地域社会に活力をもたらす人材を育成します。</p> <p>○地域と連携した学習を通じて、地域の持続的発展を担うビジネスリーダーを育成します。</p>	<p>○普通教科と専門教科をバランスよく学び、基礎学力の定着と専門的知識・技術の習得を図ります。</p> <p>○ICT機器を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを推進します。</p> <p>○簿記会計教育に特化した高大連携により、難易度の高い知識が身に付きます。</p> <p>○商業科目を学びながら、情報技術を活用した地域課題の解決に取り組みます。</p> <p>○地域社会、企業、大学、専門学校等と連携して、各種の現場実習、交流活動や外部人材を活用した学習を推進します。</p> <p>○各種資格取得において、生徒と教職員が共に日本一を目指して取り組みます。</p>

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	A	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、87%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、13%が「どちらとも言えない」と評価している。「あまり成長していない」「成長していない」の評価はなかった。	学習時間の増加、探究学習の指導法の改善、地域連携の促進などにより、グラデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促す。
生徒指導	学校生活の基本の徹底	さわやかな「挨拶」ができる生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	B	昨年度教職員が93%今年度は94%と校内で挨拶ができると感じている割合が増加している。	引き続き、明るく、いつも、先に、常に心を掛け、挨拶の励行に努める。
		端正な身だしなみができる生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	A	生徒の自己評価で97%ができていないと回答している。	頭髪など細かなところを教職員で意識統一して身だしなみ指導を行う。
		皆勤率50%以上、年間出席率99.0%以上を目指す。 A:50%,99% B:45%,98% C:40%,97% D:35%,96% E:35%未満,96%未満	C	皆勤率は45%を超えたが、年間出席率がわずかながら98%に届かなかった。	インフルエンザ等が流行し、体調不良の生徒が無理して登校せずに欠席したことが皆勤率や出席率の低下の原因と考えられる。学校生活を有意義なものにするために、感染症の予防を徹底したい。
		清掃の意味を理解し、積極的に取り組む生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	A	96%の生徒が真面目に取り組んでいると回答している。積極的に取り組んでいる様子が伺える。	真面目に取り組む生徒は現状でも多いが、さらに積極的な活動を促す。
	交通ルール・マナーの遵守	自転車のヘルメット着用率100%、重大交通事故0件を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	B	登下校で多くの生徒が着用できているが、100%ではない現状である。地域の方より未着用の指摘をいただくこともある。	継続的に呼びかけを行い、着用の意味を理解させ、自発的な着用を促す。
	豊かな人間性と思いやり	いじめの未然防止に努め、早期発見・早期対応、早期解決100%を目指す。	C	学期ごとに「いじめ等に関するアンケート」をとり、いじめの早期発見に努めた。その結果3件の事案をいじめと認知した。アンケートや本人からの訴えで認知されたいじめに対しては、双方の意見の聞き取りやいじめ対策委員会の開催による指導や見守りなどの早期対応に努めたが、中には解決に長期間かかった事案もあった。	解決に時間がかかった原因の一つに、担当教員との情報伝達不足があった。今後は関係教員や生徒課などと協体制度を構築し、チームで問題解決に向けて対応していきたい。
		地域との交流、ボランティア活動等に参加する生徒100%を目指す。 A:90% B:80% C:70% D:60% E:60%未満	B	東予ツアープランの共同開催、東予産業見学、松山大学、松山商工会議所主催「ふるさとふれあい塾」、松山港まつり、東雲地区防災訓練に参加し、地域との交流活動に積極的に関わった。 83%	生徒の学びになる企画や行事がある場合は希望者を募って参加したり、授業として参加したりすることを考えている。地域との交流による教育活動につなげることを引き続き実施していきたい。

特別活動	学校行事の活性化	学校行事に主体的に取り組む生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	A	3年生やクラスのリーダーを中心に主体的に取り組む姿が随所に見られた。また、多くの教職員の協力を得て、きめ細かな指導・監督ができたことが目標の達成につながった。	生徒の意見を積極的に取り入れ、活躍する場所を増やすことで、さらに「主体的に取り組む」ことができると思う。
	部活動の活性化	四国大会出場12部以上、全国大会出場10部以上を目指す。 A:12部, 10部 B:10部, 8部 C:8部, 6部 D:6部, 4部 E:6部, 4部未満	C	今年度、四国大会は8部、全国大会は6部の出場であったが、生徒や顧問の先生方の日々の努力が随所に伺えたことで、次年度につながる活動も多かったと感じている。	四国大会出場、全国大会出場等の実績に応じた部活動費の加算等を取り入れるなど、検討したい。
		乳幼児、高齢者、地域の方々との交流活動における充実感100%を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	E	質問を変更し、参加した生徒のみの回答としたため、充実感を感じた生徒の割合は大幅に上昇した。しかし、まだ83%であり、もう少しアップさせたい。	交流活動への積極的な参加を促すとともに、全校生徒が参加しやすい活動を考えるとよい。さらに、活動の計画の見直しをする。
学習指導	体験活動の充実	ビジネス実習・1000日実習における達成感100%を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	E	ビジネス実習（流通経済科2年生）・1000日実習（地域ビジネス科）に参加し、生きた学びになっていると感じている。59%	病欠による参加ができない生徒もいたが、ほとんどの生徒が実習に皆勤で参加した。来年度も意欲的に参加させたい。
		本校と協働活動を行った地域コミュニティの数10以上を目指す。 A:15 B:13 C:11 D:9 E:9未満	A	実習40カ所、松山大学、松山商工会議所、東予産業見学5カ所、東予ツアープラン企画2回、東雲地区防災訓練1カ所、松山市役所、西予市役所、ミカン事業者、食品販売業者等49カ所で実施した。	実習をはじめ、愛媛県依頼の事業の実施の際に多くの業者や団体と活動をし、学習体験活動を実施した。来年度も機会を見つけて授業としても組み込めるものは取り入れていきたい。
		地域イベントに主体的に参加した生徒の延べ人数100人以上を目指す。 A:150人 B:130人 C:110人 D:90人 E:90人未満	A	松山港まつり32名、東予ツアープラン2回×30名東雲地区防災訓練7名、ふるさとふれあい塾30名×5回参加した。計249名	城山門前まつりにも参加した生徒がいたが、左記の行事に主に参加した。行事の窓口が主任のみなので分担してあたりたい。
学習指導	教科指導の充実	授業の内容がよく理解できる生徒85%以上を目指す。 A:85% B:80% C:70% D:60% E:60%未満	A	生徒対象のアンケートでは91%の生徒が授業の内容がよく理解できていると回答しており、教科指導が充実していると判断できる。	生徒の視点に立って授業を振り返り、話すテンポ、板書の仕方、ICTツールの使い方を考え、さらなる授業改善に取り組んでいく必要がある。
		授業に積極的に取り組む生徒90%以上を目指す。 A:90% B:85% C:80% D:75% E:75%未満	A	生徒対象のアンケートでは93%の生徒が授業に意欲的に取り組んでいると回答しており、生徒が積極的に授業に取り組んでいると判断できる。	家庭学習への取組が不十分であると回答している生徒が多いので、学習の意味や自身で学ぶことの意義をしっかりと伝え、学習に組む必要がある。
進路指導	進路指導の充実	<u>全商検定試験1級3種目以上合格者200名以上を目指す。</u> A:200名 B:180名 C:160名 D:140名 E:120名以下	A	生徒と科目担当教員が目標達成に向けて意欲的に取り組み、全商検定試験1級3種目以上合格者は223名であった。また、全9種目に3名が合格した。	検定試験は、進路実現や自己啓発に役立つことを理解させ、積極的な資格取得を進めていく。
		進学・就職において希望する進路実現100%、地元企業への就職率90%以上を目指す。 A:100%, 90% B:95%, 85% C:90%, 80% D:85%, 75% E:85%未満, 75%未満	A	(進学) 学校推薦型と総合型で、国公立大学合格者数26名（愛媛大学4名を含む）、松山大学232名の合格者を出すことができた。松山大学の合格発表を待つまで、進学希望者の進路実現は、ほぼ100%である。また、明治大学にも指定校推薦2名に加え、さらに2名の合格者を出すことができた。関西大学、関西学院大学にも数年ぶりに合格者を輩出することができた。多岐にわたる進路実現を果たすことができたのが今年の成果である。 (就職) 就職希望者39名中31名が管内の地元企業に内定したが、割合は79.5%と若干低めになっている。なお、本校生徒は居住地の地元企業への就職を熱望している者が多い。	(進学) 共通テストの「情報」については、昨年度は全国平均点を出すことができたが、今年度は問題が難化したこともあり本校の平均点は全国平均点よりマイナス10点だった。その一方で、主要科目である「国語」と「英語」については例年よりも全国平均点に近づいており健闘したといえる。「国語」、「英語」、「情報」については、1年次の取組から振り返り、改善に努めていきたい。 (就職) 多くの地元企業から本校生徒の入社を期待されている。そのため、その期待に応えることができるように今後も指導していきたい。

		卒業1年後の就職先への定着率90%以上を目指す。 A:90% B:85% C:80% D:75% E:75%未満	B	定着率は87.5%であった。概ね生徒本人の適性と企業の仕事内容がマッチしていると考えられる。	生徒自身が自分の適性を冷静に分析し、また、企業研究をしっかりと行わせることでミスマッチが起きないように指導していきたい。
業務改善	適切な勤務時間	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用による業務の効率化や会議等の精選を進め、業務の質的改善を目指す。 校務に支障のない範囲でのテレワークの推進、年次有給休暇等の取得促進に努める。 	A	Formsにより一元化した資料の改善を行った。データ共有により教員の負担軽減につながっている。また、ペーパーレス化や資料の紛失防止、ICTスキルの向上にも役立っている。また、テレワークの推進は、働き方改革や教員のゆとりを増やすことに役立っている。	校内人事や各部署の役割分担においては、教職員全員で学校を運営するという考えのもと、業務量の平準化を図るとともに、生徒と向き合う時間と教員のゆとりを増やすことを目指していく。これまで慣習として行っている業務方法の見直しを進めていく。
	職場環境の整備	同僚や管理職との信頼を構築し、働きがい高める職場づくりに努める。	B	日常の会話や出退勤状況記録表の確認、年度末の提言等から、働きがい高める職場が整備されつつある。	仕事にやりがいを持てるように、適材適所の役割分担と信頼が構築できる職場環境を整備する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。